



定期総会についてのお知らせ

現在、日本国内において新型コロナウイルスの感染例が相次ぎ発生している中、感染経路が未だ明確に判明していないことから、不特定多数の方が集まる行事を実施することについて、感染の危険性が危惧されている状況です。

つきましては、例年 5 月～6 月頃に開催をしていました、定期総会を県、各地区共に規模を縮小しての開催とさせていただくこととなりました。各総会の詳細につきましては、担当地区から追ってご連絡いたします。

何卒御理解いただきますようよろしくお願いいたします。



令和元年度第5回理事・部門長合同会議議事録

日 時： 令和2年3月20日（金曜日）

場 所： 岩手医科大学付属病院 循環器センター3階 会議室

出席者： 行森良一 菊池英岳 畠山秀樹 高橋一博 宮本祥一

川村将史 高橋庸一郎 村上美月 中沢和浩 小野寺絵美

岡田進 下川波歩 上田大輔 舘野幸枝 成田和也 小野寺奈緒

小田原聖 内藤呂美 柴田祐二 山崎勝登志

はじめに（行森）

新型コロナウイルスで騒がれている中、また強風でお休みのところお集まりいただきありがとうございます。今回の開催も迷いましたが、学会に関して、今の時期に決めておかなければならない事項がある為、あえて開催させていただきました。本日は学会に関する検討事項がメインだと思うのでよろしくお願いいたします。

I. 報告事項

北日本支部連絡会議報告～令和2年2月21日開催～（行森）

今回北日本支部の幹事会が盛岡で開催された。各県の会長・支部長が出席。

岩手県からは菊池副会長・畠山副会長・下川事務局長に参加していただき、現在の日臨技の状態について報告を受けた。

内容

第8回北日本支部医学検査学会の終了報告について説明。教育セミナーは生理と血液の2題、日臨技企画3題、若手実行委員企画3題、一般演題104題、教育演題2題、輸血について教育カンファレンス1題、RCPC3題、日臨技の企画で学生フォーラムが開催された。ランチョンセミナーは2日間にわたり11企業であった。機器展示は22社のエントリーであった。学会参加者の内訳は学会参加者総数が854名であるが日臨技会員が609名でこの中に実務委員94名が含まれており実際には会員の方は515名であった。また協賛会員・メーカーは214名、非会員講師は19名、非会員座長・養成校教員は3名、学生は3名であった。

令和2年度北日本支部学会、研修会等の予定一覧について説明。4月25・26日の医学検査学会は延期、6月臨床一般部門・病理細胞部門の研修会を予定しているが新型コロナウイルスの関係でどうなるかはわからない状態。8月輸血細胞治療部門の研修会（確定ではないが生理検査部門も8月開催予定）、9月生物化学免疫部門の研修会、10月北日本支部医学検査学会、臨床血液部門の研修会、12月に臨床検査総合部門の研修会を予定している。

日臨技に提出した第9回北日本支部医学検査学会の企画について説明。学会テーマは「融和と協調」で会期が10月17・18日、アイーナで開催予定。今回はアイーナ全

会場を使用できる状態。学会内容として、一般演題、教育講演、特別講演、公開講演、機器展示、シンポジウム、ランチョンセミナー、日臨技企画を申請している。RCPC や若手企画が入っていないが今後検討していく。またポスターとパンフレットの構図について決定した。

演題エントリー数について説明。過去からの各部門および地区の演題エントリー数の内訳で今回の日本医学検査学会は過去最高のエントリー数で北日本支部登録状況をみると合計 210 題で福島県は 84 題、岩手県は 5 題であった。次回の日臨技検査学会の参考にしていただければと思う。

令和 2・3 年度理事候補者の推薦の依頼について説明。北日本支部に関しては各県 1 名合計 8 名の定数枠が設けられており、設けられた理由として日臨技での会議の内容を北日本支部長からお知らせするのに時間がかかるという問題が以前からあり、直接日臨技の意向を会員に伝えタイムラグをなくしたいということであった。岩手県からは菊池副会長を推薦した。今後日臨技の会議で承認され進めていくものと思われる。

II. 各事業について

1) 総務部（菊池）

会員名簿に関して、岩臨技の新しいホームページが出来上がったなら日臨技の名簿を借りて掲載したいと思っている。

補足（宮本）今回新しいホームページには施設一覧および住所・電話番号が掲載され、これに関しては誰でも閲覧できるようになっているがそれとはまた別に会員専門で入れる枠を作成し名簿を掲載する計画をしている。セキュリティに関してはこれから検討していく。

2) 学術部（畠山）

3 月の研修会や精度管理報告会は新型コロナウイルスの影響の為中止になり件数が伸び悩んだ。岩手県医学検査学会が中部地区で開催され成功に終わった。

補足（行森）精度管理報告会は中止となったが特に精度管理の報告上問題となる報告は無かったので今回は成績書をダウンロードして頂いて終了となる。

3) 公益部（川村）

11 月の健康展以来特になし。

4) 生涯教育（宮本）

精度管理報告会を含め 2 月 3 月の研修会は中止となっており、過去 5 年間で一番少なく 33 回の開催となっている。日臨技の助成も 20 行事受けられるが 17 行事で終わってしまった。理由として役員の交代で申請が間に合わなかったことも考えられる。来年度は今年度より増やしたいがこれからの情勢でどうなるか見通しがつかない状態である。

5) 事務局（下川）

新型コロナウイルス関連について、各施設に PCR 検査可能かどうかメールでお知ら

(い わ て)

せしたが、また日臨技から問い合わせがきたときはよろしくお願ひしたい。今回、日臨技でダイヤモンドプリンセス号の検体採取に3県から24・5名入ったが、医師会よりまた大型客船で同じようなことが起こった場合、その地区の技師会に委託したいとのこと。実際には事務的仕事（検体が入ったボックスを搬送し、書類を作成する）のようであつたらしい。サイボウズでお願ひした5月末の総会の資料の作成をお願いします。例年、5月の最終土曜日に総会を開催しているが、5月の日臨技企画の研修会の中止や延期が決まってきた（開催は主催者側に任せるとなっているが日臨技会館で開催するものは実施し、他施設を利用するものは実施しない方針であつたが現在すべて実施しない方向になっている）総会は登記の関係上実施しなければならない。今回、総会は縮小ということで、4月早々に例年通りの総会を見送る案内状を流し、後日議案書と委任状を発送・収集、理事会規模の総会を開催することにする。総会の資料を作成するうえで常任理事会は開催する。

各地区の総会については総会資料を作成し自肅ということで地区の役員会と総会を兼ねて行う方向でお願ひしたい。

日本臨床検査技師連盟から各支部を各県各技師会主導で設立するようお達しがあり岩手県の場合最低3名役員をおき総会を開催し年1回会計報告を県に提出し定款を作成し県に政治団体として県の選挙管理委員会に申請し登録をしなければならない。来年参議院選挙との兼ね合いもあり宮島会長は今年より選挙活動を始動するということで足並みを揃えて欲しいとのこと。

6) 各地区活動

盛岡地区（川村）

最後の研修会を2月8日に予防医学協会で開催した。参加者30名程度。内容は心電図についてと交流会を兼ねてピラティスを実施、多くの方に参加していただいた。3月に市立病院で予定していた会議ができなくなりライン等を利用し共有を踏った。4月の役員決めに関しては情報を集めており3月提出分の総会に向けての資料作成し、4月に会議の開催を考えている。

中部地区（高橋）

研修会を2月15日に中部病院で下肢静脈エコーの基本ということで開催した。参加者30名程度。その後幹事会を開催し、4月18日に総会・研修会を予定している。

南部地区（中沢）

検査と健康展以降活動なし。年明けに研修会を予定していたが開催できなくなった。

三陸地区（岡田）

1月に山田病院で3回目の研修会を開催した。参加者12名程度。以前は宮古病院や釜石病院で行っていたが道路事情が良くなり中間地点の山田で開催することが可能になったが、会員の意見も取り入れ今後の活動に生かしていけ

(い わ て)

ればよい。1名理事が退会したので話し合いで決めたいと思う。総会は5月に予定している。

北部地区

欠席。

Ⅲ. 第9回日臨技北日本支部医学検査学会について

学会準備委員会（畠山）

①役割分担について

学会業者（ヤマダプランニング）との交渉

菊池英岳 川村将史 下川波歩

昨年度山形県で開催された学会の資料を参考にし、ある程度自分達ができる分を引いた感じで見積りを出してもらえば良いのではないか。山形の学会では日臨技からある程度持ち出しをしている。印刷物・垂幕系はヤマダプランニングに頼む。

抄録・学会マニュアル編集

菊池英岳 井上幸男 高橋一博 宮本祥一 千葉拓也 下川波歩

前回学会時のマニュアルがしっかりしているので手を加える程度で良いと思われる。

学会ホームページ担当

畠山秀樹 宮本祥一 佐々木昌幸

画像を収集するのが大変な為、前回の学会の際に使用したホームページを引用し作成していただく。

機器展示

高橋一博 千葉拓也 下川波歩

会場区割

畠山秀樹 川村将史

式典・懇親会

菊池英岳 川村将史 浅沼匡介

受付周辺

畠山秀樹 高橋一博 宮本祥一

教育講演

各部門長

会場の責任者ということ。

公開講演・特別講演・RCPC・ランチョン等

菊池英岳 畠山秀樹 下川波歩 担当部門長

ランチョンセミナーを2日目に開催しないとなると収入減になることから1日目に時間を縮小して40分+40分=80分で2題開催する等調整が必要と思われる。

(い わ て)

日臨技企画

菊池英岳 高橋一博 千葉拓也

宮島会長の情勢報告会と日臨技企画がきている。

地区理事は後程サポートとして入って頂くことになる。

②特別企画について

公開講演『ボケー座』：交渉してある。

特別講演 諏訪部先生

学会企画 多職種連携：医事経営課からはいいであろうという返事あり。

あとの職種に関してはまだである。

RCPC 学術部門長に考えて頂く。

③各部門の教育講演内容について

予定であり正式に決定するのはこれからである。

縮小の可能性も考えられるがとりあえず教育講演は通常どおり組んで
おいたほうが良いと思われる。(縮小から拡大より拡大から縮小のほうが
容易であるので)

病理・細胞検査部門 (柴田)

遺伝子パネル検査の現状と問題点 (仮)

東京大学・金子信行技師

融合遺伝子の定性/定量について (仮)

サーモフィッシャーサイエティフィック・ライフ

テクノロジーズジャパン株式会社

白神博先生

2日に分けて開催する (1日目 (土) に金子技師の予定)

生物化学分析部門 (上田)

ALP、LD IFCC 関連 (仮)

人間総合科学大学 人間科学部 特任教授

山館周恒先生

1日目 (土) 14時以降にお願いしたい。2日目は未定。

生理機能部門 (舘野)

3名 30分ずつ交渉中で2名は岩手医大と磐井病院の方は2日目 (日)

でも大丈夫と思われる。もう1名は交渉中であるが東北の方である。

感染制御部門 (成田)

「薬剤耐性菌を迅速かつ正確に検出するための知識のアップデート」

として奈良県立医科大学 微生物感染症学講座教授 矢野寿一先生に
お願いしている。もう1題は考え中である。

(い わ て)

総合管理部門 (小野寺)

RCPC に抱き合わせで、実際に自分が RCPC を企画する側に立った場合どのように進行していったらよいか等お話していただく。

各部門の内容が専門的なものが多いので若手にスポットをあてた企画として緊急検査のピットフォールみたいな基本的な勉強会として緊急検査技師の方にお話していただくのも良いと考えている。また逆に若手の方に講師になっていただき進めていくのも考えている。

検査データを見るうえで栄養状態も絡んでくるので NST に関わる栄養士の方にお話をしていただければと思う。

移植検査部門 (小田原)

参加型の「こんなときどうする？」のケーススタディを考えており講師は弘前の小山内さんと福島の皆川さんをお願いしている。あともうひとりどなたか探している。枠として 90 分から 120 分枠 (90 分でも良いと思われるが) 頂ければ良いと思われる。もし、あと 1 日教育講演をということであればまたこれから探さなければと思っているところである。

一般検査部門 (下川)

RCPC を予定しており、講師は北陸大の油野先生をお願いしている。内容としては、先生が予め症例を出題し、それに対し前もってスライドを作成し展開していくという形式。スライド作成担当に関しては今のところ未定である。もう 1 演題は近隣県でお願いしようか考え中である。

血液検査部門 (内藤)

「DIC 診断と臨床検査」と題し金沢大学の朝倉先生からお話を頂こうと思う。土曜日は仕事をされており遠方からおいでになるということもあり 2 日目 (日) をお願いしたい。もう 1 演題は教育セミナーとして県内の認定技師を講師に招いて形態カンファレンスを予定している。

④その他

若手企画に関しては日赤の浅沼さんに打診してみる。

学生フォーラム・高校生ガイダンスに関して実施するのかどうか日臨技に訊いてみる。

行森会長よりこれからの学会準備予定スケジュールの説明があった。

一般演題の申し込みは 6 月から。情報交換会はホテルメトロポリタンニューウィングで行う。旅行会社は JTB。

学会企画の多職種連携に関してはシンポジウム形式を考えており詳細は中央病院の工藤さんに訊いてみる。

RCPC に関しては千葉さんを担当者とし岩手医大の鈴木先生をお願いしてみる。

Ⅲ. その他

サイボウズの追加について、井上さんと工藤さんと各部門長の下で働く方1人を申請したいと思うので、サイボウズの中に「サイボウズ追加メンバー」名のフォルダを作成しておくので施設名と名前とアドレスを入れておくように。

岩臨技の新しいホームページについて（宮本）

テストサイトを閲覧した。

現在作り込みの最中で4月からの更新を目指している。

構築費用はほぼ予定通りになりそうである。

会員より「会報いわて」のフォントが統一されていなく見づらいとの意見がありフォントを統一するよう気をつけるようにする。



研修会報告

第2回中部地区技師会研修会に参加して

県立中部病院 木下紗桜

今回参加させていただいた研修会の内容は下肢動静脈エコーの基本についてでした。日常業務において下肢エコーに携わっていないため、私にとっては初めて耳にする用語が多く、難易度の高いものでしたが、これから下肢エコーを学習していくきっかけとなりました。私が下肢静脈瘤の症状として知っていたのは、下肢のだるさや浮腫、痛みなどでした。これらの症状が慢性的なると QOL の低下を引き起こしたり、まれに悪化することにより、湿疹、色素沈着などのうっ滞性皮膚炎から皮膚潰瘍を形成して重症になることもあるようなので、炎症を起こす前に早めの治療を受けることが重要であることを改めて感じました。下肢静脈瘤の危険因子は、加齢、遺伝、肥満、妊娠、立ち仕事、便秘など数多くあることも知ることができました。通常業務のなかで下肢静脈瘤の患者さんにお会いすることは少ないですが、日本人の約9%に下肢静脈瘤があり患者数は1,000万人以上存在し、出産経験のある成人女性の2人に1人が発症すると言われるほど身近な疾患であるという事実に衝撃を受けました。また、この疾患は部位と太さによってクモの巣状静脈瘤、網目状静脈瘤、分岐型静脈瘤、伏在型静脈瘤の4種類に分類されることやこの分類によって治療方針が異なることなども勉強になりました。下肢静脈瘤の患者数の多さを受け、予防として、足のマッサージや適度な運動、長時間の立ち仕事の場合は弾性ストッキング履くなどの日常の小さなことから対策を行っていくことの大切さも学ぶことができました。

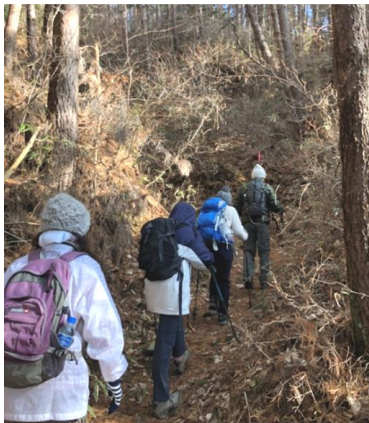


岩臨技登山同好会より 2020 年初登り

氷上山登山に行ってきました

総務部の企画として数年前から登山を企画してきましたが、天候などに恵まれず企画倒れになってきました。今回も半ば自暴自棄で企画して会報に載せて反応を待っていました。

2020年になり予定の1週間前となり、リハセンの川村さんから、まだ間に合いますかという奇跡のラインが入りました。それまでは遠野病院登山同好会の企画で終わってしまいそうだったのが、1通のラインで岩臨技登山同好会になり総務部企画が成立しました。当日はこの時期として雪は少なく、登り始めは枯れ葉を踏みしめながらでしたが、頂上に近づくにつれて雪道になり秋から冬を足もとで感じることができました。天候も良く晴天で遠くの雪山とまぶしい海が見ることができました。1時間少々 of 山行でしたが、日ごろの運動不足を解消するにはちょうどいい感じでした。帰り山頂付近にあった山小屋の薪ストーブでお湯を沸かしカップラーメンを汁代わりにおにぎりを食べ、それぞれ持ち寄ったデザートを食べたりして、荷物は軽くなりましたが、体は重くなり消費以上のカロリー摂取で山太りになりましたが、情報交換と他職種連携ができました。



今回の『つなぐ』は岩手県立久慈病院 工藤翔矢さんです

(い わ て)

最後にちょっとだけ勧誘を。県庁サッカー部は県庁という名前がついているチームですが、県職員に限らず誰でも入ることができます。悲しいことに試合の人数が足りないことがよくあります。興味がある方はぜひ！

次は県立二戸病院の油川舜君に繋がりたいと思います。舜とは弘前大学の同級生で、学生の時から仲が良く、就職後もよく遊んでいます。つい最近も十和田までドライブし、ソフトクリームを食べてきました。では、よろしくお願いします！

総務部からのお願い

年度末になり、人事異動などで勤務先や住所が変更になる方もいると思います。異動になられた方は、事象が起きたら放置しないで年度内に各自で日臨技のホームページからログインして変更事項の訂正をお願いします。変更の訂正漏れがありますと、日臨技からの郵便物やお知らせが本人宛に届きませんので、すみやかな変更事項の修正の手続きを行ってください。なお、次回の会員名簿作成に日臨技の名簿を活用しますので修正漏れのないようによろしくお願いします。

～編集後記～

だんだん暖かくなり春らしくなってきました。春は異動など環境が変わりソワソワ、花粉で鼻がムズムズする季節です。今年の花粉飛散量は例年より少なめと予想されていたので油断していたら2月に入ってから症状が出始め悩まされています。花粉症の方には辛い季節ですね。新型コロナウイルス感染が日に日に広がり、外を歩く人が減ったように感じます。一日も早く終息してほしいです。(村)

会報「いわて」第330号 2020.4

一般社団法人岩手県臨床衛生検査技師会

発行人：

会 長：行森 良一

事 務 局：下川 波歩

編集責任者：村上 美月

山崎 勝登志

〒020-8505 盛岡市内丸 19-1 岩手医大中検内

Tel.(019)613-6111 内線 3699 Fax.(019)654-8510

<http://www.iwateamt.or.jp/>

会報専用メールアドレス：

kaiho@iwateamt.or.jp